



- ふ ぐ る ま -

図書館だより 159号

(2011.6.1)

三郷町立図書館

三郷町勢野西1-4-4

TEL/0745(33)3030

FAX/0745(33)3188

<http://www.lib.sango.nara.jp>

<http://mobile.lib.sango.nara.jp>



節電

今年は例年より早く近畿地方も梅雨入りしました。湿気の多い毎日が続きます。梅雨が明ければ暑い夏が待っています。高温多湿の日本でこの時期を快適に過ごすため、今の私たちの生活にクーラーが欠かせません。しかし、クーラーになるべく頼らないで梅雨や暑い夏をどのように過ごすのか、今年の大きな課題となっています。街では涼しく感じるような様々なグッズが売られています。日よけのためにすだれの利用や緑のカーテンを今から準備したりと、一人一人の創意と工夫が必要でしょう。図書館内も例年よりちょっと暑いかなあと思われるかもしれませんが、ご理解いただきたいと思います。

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館時間

月曜日～土曜日...午前9時30分～午後7時

日曜日.....午前9時30分～午後5時

休館日(斜線)

毎週水曜日,

6月6日(月)館内整理日

7月4日(月)館内整理日, 7月18日(月)海の日

* 館内整理日が、毎月第1月曜日に変更しました。

生誕記念の芸術家たち

岡本太郎

1911年(明治44)、東京生まれ。母 岡本かの子の長男として自由に育ちました。ピカソの作品に衝撃を受け、抽象芸術に進みました。1970年に完成した、大阪万博博覧会のシンボル「太陽の塔」(永久保存)はあまりにも有名ですが、文筆活動も多く、それらの言葉には彼の精神が溢れています。

太陽の塔について

- そこで私は逆に時空を超えた、絶対感。馬鹿みたいに、ただどかんと突っ立った『太陽の塔』を作ったのだ。現代の惰性への激しい挑みの象徴として。 -

「人間は瞬間瞬間に、いのちを捨てるために生きている。」

岡本太郎 著 (B 914.6 才)

「壁を破る言葉」 岡本 太郎 著 (723.1 才)

「ドキドキしちゃう - 岡本太郎の書」 岡本 太郎 書 (723.1 才)

「岡本太郎 歓喜」 岡本 太郎 作品・文 (708.7 才)

「岡本太郎新世紀」(別冊太陽) 平凡社 (723.1 才)

「太陽の人・岡本太郎」 岡本 敏子 編 (723.1 夕)

「岡本太郎に乾杯」 岡本 敏子 著 (723.1 才)



河井寛次郎

陶芸とは、やきもの美術、芸術、まさに陶の芸術です。

1890年、島根県生まれの陶芸家 河井寛次郎は、昨年生誕120年を迎え、今年各地で記念展が催されています。1937年パリ万国博覧会でグランプリを受賞しましたが、人間国宝(重要無形文化財保持者)も文化勲章も断り、生涯無位無冠を貫き、ひたすらに美を追求しました。

当時美術記者だった井上靖や、棟方志功、芹沢銈介、バーナード・リーチ、富本憲吉、柳宗悦等とも交遊があり、刺激や影響を受けましたが、戦中は作陶もままならず、書くことで、その思想をより高めました。随筆や詩のひとつひとつに思想があります。

「火の誓ひ - 河井寛次郎随筆集」 河井寛次郎 著 (T 914.6 力)

「河井寛次郎の宇宙」 河井寛次郎記念館 編 (751.1 力)

「河井寛次郎作品集」 京都国立近代美術館 編 (751.1 力)

ちゅうりょう
佐藤 忠 良

彫刻家の佐藤忠良は、1912年、宮城県生まれですが、来年100歳を迎える前の今年3月、老衰で亡くなりました。日本人の体つきや内面を追及し、一貫して具象彫刻を手がけました。(奈良県内では、中野美術館(奈良市)で「帽子」「若い女・夏」が常設されています)

戦後、シベリアでの抑留生活の経験があり、そこでスケッチを重ねたことから、シベリアの農民の暮らしがわかる表現が不可欠だという編集者の目にとまり、絵本「こどものとも」の「おおきなかぶ」の絵の制作に抜擢されました。おじいさんたちを左側に配置したのは、右利きの人の割合が多いので、かぶが抜けにくい感じが出るからだとか…。文は簡潔で力強く、登場人物の言葉や気持ちは何も語られていないのですが、考え抜かれた描写により、それが伝わってきます。



「おおきなかぶ」 佐藤 忠良 画 内田 莉莎子 訳 (Eサ)
「遠近法の世界史」 佐藤 忠良 ほか著 (720.4工)
「手をめぐる四百字 - 文字は人なり、手は人生なり」
季刊「銀花」編集 (914.68テ)

「絵本のよろこび」 松居 ^{ただし}直 著 (019.53マ) p.127 ~ 129

春日敏邦日本画展 - 大和と出雲の風景

三郷町在住の画家 春日敏邦氏の日本画です。

春日氏は、奈良を描くために三郷町に移って来られました。「古くから人が住んでいた出雲と大和は、山々に囲まれ、天と地がつながるような共通点がある」のだそうです。

法隆寺、明日香、山辺の道、また、故郷出雲の宍道湖(しんじこ)などの風景をご鑑賞ください。

と き : 5月31日(火) ~ 6月5日(日)
(水曜日を除く)

午前9時30分 ~ 午後5時

ところ : 1階 視聴覚室前 ロビー

入場無料



6月の行事予定

おはなし会 (おはなしルーム)

5日・12日・19日・26日(毎週日曜日)

小さい子ども向けのおはなし - 午前10時30分～10時50分

大きい子ども向けのおはなし - 午前11時～11時30分

土曜の午後のおはなし会 (おはなしルーム)

25日(土) 午後2時～3時

春日敏邦日本画展 - 大和と出雲の風景 (視聴覚室前ロビー)

5月31日(火)～6月5日(日) (休館日は除く)

午前9時30分～午後5時

フロアーコンサート (おはなしルーム前)

25日(土) 午後4時～4時30分

演奏: ギター・マンドリン・アンサンブル・ブルースカイ



上映会 (視聴覚室) 土曜日・午後2時開演 (1時30分開場)

4日(土) 「**仇討**」(1964年) 103分

監督: 今井正 主演: 中村錦之助

11日(土) 「**日本の悲劇**」(1953年) 116分

監督: 木下恵介 主演: 望月優子

18日(土) 「**巴里の屋根の下**」(1930年) 75分

監督: ルネ・クレール 主演: アルベール・プレジャン

25日(土) 「**有りがたうさん (ありがとうさん)**」(1936年) 78分

監督: 清水宏 主演: 上原謙

生涯学習室開室のお知らせ

とき: 毎週土・日曜日と6月23日(木)～30日(木) (休館日を除く)

じかん: 午前9時30分～閉館30分前まで



スマイル～編集後記 6月といえば梅雨…。今月は武鹿悦子氏のさわやかな詩をお届けします。少しは、気分も晴れるかしら…。

「雨のまゆ」

空にはまゆがあるのでしょ う 雨をつつんだ 雨のまゆ

新芽で わぁーんとふくらんだ 雑木林に 草むらに つむぐ だれかがいるのでしょ う

きのうも きょうも きぬ糸の やさしい雨が つむがれる